

科目	単位	時間	履修学年	講師名
在宅療養を支える看護 I	1	30	2	久保田 千代美
ねらい	在宅看護介入時期別の特徴について学び、様々なライフステージや背景の事例をもとに訪問看護の援助技術及び実際を学ぶ。			
回数	授業内容	授業方法		
1 回目	1. 訪問看護技術	講義		
2 回目	1) 家庭訪問・初回訪問	講義		
3 回目	2) 在宅療養を支える基本的な技術	講義		
4 回目	(1)コミュニケーション (2)在宅におけるヘルスアセスメント 技術 (3)環境整備 (4)生活リハビリテーション (5)感染予防	講義		
5 回目	2.疾患・病期に応じた看護	講義		
6 回目	1) 疾患等に応じた看護 2) 病期に応じた在宅療養者への看護	講義		
7 回目	3. 事例で学ぶ在宅看護の実際と在宅看護技術	講義・演習		
8 回目	1) 事故により中途障害者となった成人男性 (1)褥瘡管理 (2)肢位の保持と移動 P128 トランスファー (3)おむつ交換・膀胱留置カテーテルの管理	講義・演習		
9 回目	2) 地域で生活する重症心身障害児の看護	講義・演習		
10 回目	(1)家庭環境と家族の状況のアセスメント (2)在宅療養で利用できる小児のサービス (3)呼吸理学療法と一時的吸引 (4)在宅経管栄養法・PEG	講義		
11 回目	3) マルトリートメントが疑われる医療的ケア児	講義		
12 回目	4) 生活の自立を目指す精神障害者の看護	講義		
13～14 回目	(1)生活のアセスメント 第4章 睡眠 P139 (2)障害者支援法と公費負担医療について (3)障害者手帳について (4)生活自立のためのケアと公的サービス	講義		
14.5 回目 (45分)	5) 被虐待が疑われる認知症高齢者	講義		
15 回目分 (45分)	終講試験	試験		
教科書	ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア (メディカ出版) ナーシンググラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術 (メディカ出版)			
評価方法	筆記試験 (1時間【45分間】: 100点)			
備考				

科目	単位	時間	履修学年	講師名
在宅療養を支える看護Ⅱ	1	30	2	石野 君子
ねらい	在宅で療養している様々なライフステージ・背景を持つ対象の事例をもとに訪問看護の技術および実際を学ぶ。			
回数	授業内容	授業方法		
1回目	1. 地域包括ケアシステムについて 1) ケアマネジメントの方法	講義		
2回目	2. 事例で学ぶ在宅看護の実際と在宅看護技術	講義・演習		
3回目	1) 脳梗塞後遺症で高次脳機能障害のある療養者の看護			
4回目	(1)第4章 食生活 P104 排泄 P114 清潔 P123 (2)移動・移送の導線のアセスメント (3)生活環境の安全と工夫・住宅改修の一例 (4)老老介護の実際とケア			
5回目				
6回目	2) 在宅での自己管理を続けている独居の糖尿病高齢者 (1)インスリン自己注射 (2)薬剤の管理と指導 (3)足病変のケア (4)在宅 CAPD 管理	講義・演習		
7回目				
8回目	3) 在宅での生活に不安を抱きつつ退院する ALS 療養者	講義・演習		
9回目	(1)第4章 呼吸 P133			
10回目	(2)在宅人工呼吸療法 (HMV)、気管カニューラ、非侵襲的陽圧換気療法 (NPPV) (3)排痰法、摂食・嚥下障害、口腔ケア (4)在宅中心静脈栄養法 (HPN)			
11回目				
12回目	4) 最期まで自宅で過ごしたい終末期のがん療養者	講義・演習		
13回目	(1)外来がん治療(2)発熱症状、消化器症状 P153～159 第5章			
14回目				
14.5回目 (45分)	(3)終末期のアセスメント、本人や家族の心のケア (4)疼痛緩和のアセスメントと疼痛コントロール (5)グリーフケア			
15回目 (45分)	終講試験	試験		
教科書	ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア (メディカ出版) ナーシンググラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術 (メディカ出版)			
評価方法	筆記試験 (1時間【45分間】: 100点)			
備考				